

6. 基本構想案の「2. 目指す学校の方向性」についてのご意見や、新しい学校に期待することを入力してください。(自由記述)

保護者

1. 施設・設備の充実と安全確保

要約：校舎の老朽化対策や、新しい学校づくりにおける物理的な環境整備に関する意見。

- ・老朽化・教室不足の解消：校舎の更新、教室の確保、トイレの美化・改修。
- ・バリアフリー・安全性：災害時の避難場所としての機能、防犯対策、感染症対策。
- ・充実した設備：図書室の充実、デジタル化による負担軽減、能動的・可変性のある環境。
- ・併置校への配慮：特性の違う子が混在するための専用設備の確保。

2. 専門的な教育と個別支援の追求

要約：子ども一人ひとりの能力を伸ばし、特性に応じた柔軟な対応を求める意見。

- ・個別最適化：個々の能力・可能性を最大限に引き出す教育、特性に応じた合理的配慮。
- ・療育・専門性：高度な療育の実施、知肢併置による専門性の低下への懸念。
- ・学びの内容：本人の得意を伸ばす授業、単なる集団適応ではない教育の質。

3. 教職員の体制強化と専門性向上

要約：教育の質を左右する「人」に関するリソース拡充の要望。

- ・人員増員：教員および看護師の増員（ゆとりある指導体制）。
- ・質の向上：教員の専門知識、経験、人間性の重視、および先生へのバックアップ体制。
- ・意見の尊重：現場の先生や保護者の声を反映させた運営。

4. 地域交流と社会との共生（インクルーシブ）

要約：学校を閉鎖的な空間にせず、社会とつなげるための提案。

- ・開かれた学校：敷地内のインクルーシブ公園設置、カフェのような交流スペースの創設。
- ・相互理解：健常者への障害理解促進、地域住民との日常的な交流（散歩や憩いの場）。
- ・隔離の防止：親子が社会から隔離されないための支援、地域との分断の解消。

5. 卒業後の自立と進路サポート

要約：学校卒業後の生活に対する不安と、それを見据えた教育への期待。

- ・自立スキルの習得：社会性、就労支援、生活スキルの向上（親亡き後の備え）。
- ・情報提供：小学部の頃からの早期進路情報、卒業後まで続く継続的なサポート。
- ・実習の充実：学校内での実習や体験の機会を増やすこと。

6. 基本構想案の「2. 目指す学校の方向性」についてのご意見や、新しい学校に期待することを入力してください。（自由記述）

6. 知肢病併置（多機能化）への期待と不安

要約：異なる障害種別が同じ校舎で学ぶことに対する具体的な意見。

- ・懸念：転校による負担。障害特性の違いによる事故（接触や怪我）の懸念、ニーズの違い、運営の難しさへの危惧。

7. 予算・制度・根本的な課題解決

要約：行政に対する財政面や制度設計への要望。

- ・適正な予算配分：寄付による充実ではなく県予算による整備。人員・設備への確実な予算投入。
- ・判定と校区：軽度判定者の地域校への通学、マンモス校化の回避（校区を細分化する等）。
- ・包括的支援：家庭と学校が連携できる包括的な取り組み。

6. 基本構想案の「2. 目指す学校の方向性」についてのご意見や、新しい学校に期待することを入力してください。（自由記述）

教職員

1. 安全・安心な環境整備と動線の確保

要約：学校運営の最優先事項として「安全」を掲げ、物理的な分離や動線の工夫を求める意見。

- ・徹底した安全管理：健康かつ安全な環境の構築、誰もが安心して過ごせる場所。
- ・動線の分離：知的・肢体不自由の部門間でのバス発着場、体育館、プール、運動場の分離。
- ・スムーズな車両運行：事業所の車が円滑に通行・乗降できる敷地内導線の確保。

2. 知肢病併置（多機能化）への不安と専門性の維持

要約：異なる障害種を統合することによる各障害に対する専門性の確保に関する意見。

- ・専門性の低下に関する不安：肢体不自由教育の専門性の確保に関する懸念。
- ・運営の分離提案：敷地は同じでも、部門ごとに運営や施設を完全に分ける必要性。
- ・他県事例の教訓：知肢併設校での課題の提供と慎重な判断への要望。

3. 教職員の体制強化と現場の疲弊解消

要約：教員不足や多忙により、現場に余裕がないという意見。

- ・人員の確保：児童生徒の重度化・増加に対応できる十分な教員数の配置。
- ・労働環境の改善：教職員にとって働きやすく、心にゆとりを持てる環境づくり。

4. 地域共生・拠点（センター）機能の充実

要約：学校を地域に開き、交流のハブ（拠点）としての役割を期待する意見。

- ・開かれた学校づくり：門を閉めず、地域住民が立ち寄れるカフェや販売所の設置。
- ・外部交流の促進：大学生や地域住民との宿泊・スポーツを通じた交流。
- ・地域の拠点機能：奈良県の特別支援教育のセンターとしての最新設備と情報発信。

5. 個別ニーズへの対応と自己実現

要約：一人ひとりの発達段階や特性に合わせたきめ細かな教育を求める意見。

- ・個能力の最大化：個々のニーズに応え、自己実現と能力を最大限に引き出す支援。
- ・計画的な教育：12年間を見据えた一貫性と、実態に合わせた臨機応変な指導。
- ・合理的配慮：重度重複化に対応した充実した設備と、規制の少ない教育環境。

6. 卒業後の自立と進路・社会参加の支援

要約：学校教育の出口である、将来の生活を見据えた具体的な支援に関する意見。

- ・社会進出の準備：高等部における進路指導の強化、社会人としての「練習」の場。
- ・継続的なサポート：卒業後も気軽に相談に来られるような、敷居の低い学校。
- ・自立への支援：卒業後の自立と社会参加につながる能力の育成。

6. 基本構想案の「2. 目指す学校の方向性」についてのご意見や、新しい学校に期待することを入力してください。(自由記述)

7. 現場意見の尊重と迅速な情報提供

要約：計画の策定プロセスや、行政への透明性を求める意見。

- ・当事者の声の反映：児童生徒、保護者、教職員の意見を取り入れた学校づくり。
- ・見通しの提示：現場の疲弊を理解し、開校までのスケジュールや見通しを早期に示す。
- ・方針の継承：既存校（奈良養護等）が培ってきた教育方針の尊重と丁寧な調整。

9. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」や「4. 施設の機能の整理」についてのご意見、また施設について、特に配慮すると良い点などを入力してください。（自由記述）

保護者

1. 施設・設備の充実と安全確保

要約：校舎の物理的な環境整備や、児童生徒が安全に過ごすための設備に関する意見。

- ・老朽化対策と基本設備の整備：トイレや廊下を含めた全館冷暖房（空調）の完備、清潔で明るい施設、安全な建材の使用。
- ・安全性・防犯の徹底：1人での飛び出し防止対策、警備の強化、他校の事例を踏まえた安全柵等の設置。
- ・バリアフリーと福祉機能：福祉避難所としての想定、車椅子やリフターに対応した設計、最新技術（リフター等）の導入。
- ・適切な維持管理：100年後を見据えた耐久性の確保、設備の設置後の継続的なメンテナンス予算の配分。

2. 教育的ニーズに対応した専門教室と環境

要約：学習効果を高め、個々の能力を伸ばすための具体的な部屋や環境づくりに関する意見。

- ・実習・活動スペースの拡充：喫茶実習室、作業学習室、雨天利用可能な農場、多目的ホールの可変性（仕切り）の確保。
- ・肢体不自由・医療的ケアへの対応：故障しない温水プールの設置、理学療法・作業療法を行えるリハビリルーム、教室へのベッド設置。
- ・個別の自立支援：トイレトレーニングがしやすいゆとりあるトイレ空間、視覚的に分かりやすい校内表示。

3. 併置校（知的・肢体）における空間設計

要約：異なる障害種別や年齢層が同一敷地内に在籍することによる、設計上の配慮に関する意見。

- ・接触による事故の防止：知的障害児が医療的ケア児の機器に触れないような配慮、多動や危険認識が難しい子への安全確保。
- ・学部・部門別の配置：小・中・高の各学部をある程度分けて施設配置、入口を分けるなどの配慮。
- ・過密化の解消：駐車場、バスロータリー、教室数の十分な確保。スペース不足への懸念の解消。

4. 地域連携・共生社会のあり方と防犯

要約：地域に開かれた学校づくりと、生徒の安全・プライバシーの両立に関する意見。

- ・当事者優先の地域開放：休日に障害児家族が優先的に利用できる遊び場の確保。
- ・防犯と交流のバランス：地域交流を活発にしつつも、厳重な警備を両立させること。
- ・交流の質と専門性：コーディネーターの配置、志のある学生（福祉系等）の積極的な受け入れ、単なる「教材」にされない配慮。

9. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」や「4. 施設の機能の整理」についてのご意見、また施設について、特に配慮すると良い点などを入力してください。（自由記述）

5. 登下校環境と外部連携の整備

要約：学校の敷地外や、他校とのつながりに関する環境整備の意見。

- ・アクセス環境の整備：車送迎に対応した外周道路、徒歩登校のための周辺歩道の拡幅・整備。
- ・地域校との連携：遠隔システムや訪問を活用した、居住地の地域校との連携を支える環境。

6. 計画の進め方と意見集約

要約：学校づくりにおける優先順位や、スピード感、意見反映のプロセスに関する意見。

- ・当事者・現場意見の反映：現場の教職員や保護者の具体的要望を予算に反映することへの要望。
- ・早急な実施：教室不足を解消するためのスピード感のある建設、既存校との格差への配慮。
- ・設問への疑問：地域連携よりも、まずは学校教育・療育環境の充実を最優先すべきという順位付けの明確化。

9. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」や「4. 施設の機能の整理」についてのご意見、また施設について、特に配慮すると良い点などを入力してください。（自由記述）

教職員

1. 施設・設備の充実と安全確保

要約：校舎の老朽化対策や、新しい学校づくりにおける物理的な環境整備に関する意見。

- ・老朽化・教室不足の解消：現在の校舎の老朽化や過密状態の改善、将来的な児童生徒数増加を見越した余裕のある設計。
- ・バリアフリー・安全性：大型の車椅子がすれ違える廊下幅や大型エレベーター、地震や火災時に車椅子で避難可能な構造、全館冷暖房（トイレ・廊下含む）の完備。
- ・充実した設備：読書バリアフリーに対応した図書室、医療機器用のコンセント増設、リフターの設置、断熱・省エネ仕様の校舎。
- ・防災・防犯機能：福祉避難所としての機能（自家発電、防災倉庫）、防犯用ブザーや強化ガラスの常設、遠隔操作による門の施錠。

2. 部門併置（知的・肢体・病弱）への配慮と空間分離

要約：異なる障害特性を持つ児童生徒が在籍することによるリスク回避と、それぞれの専門性を担保するための意見。

- ・専用施設の確保：知的部門と肢体不自由部門で体育館、プール、運動場をそれぞれ専用に設置（共用による教育課程の制約回避）。
- ・安全な空間配置：知的障害児の多動・衝動的行動による肢体不自由児への接触や医療機器（呼吸器等）への誤操作を防ぐための動線分離。
- ・障害特性を踏まえた生活環境の整備：音に敏感な肢体不自由児への騒音配慮、水温設定の異なるプールの個別管理。

3. 医療的ケア・肢体不自由教育への専門的設備

要約：重度重複障害や医療的ケアが必要な児童生徒が、安全かつ円滑に学習するための設備に関する意見。

- ・教室内の医療的ケア実施環境の整備：各教室への温水シャワー、給湯設備、物品用カート、注入やケアのための大型畳ベッドの設置。
- ・特別教室等の充実：看護師待機室の学部別設置、リハビリ（OT/PT）室の確保、入浴練習ができる水治療室。
- ・保健・給食の配慮：経管栄養や食形態（ペースト食等）に対応した専用の調理・食事スペース、吸引等が行える十分なベッド数を持つ保健室。

9. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」や「4. 施設の機能の整理」についてのご意見、また施設について、特に配慮すると良い点などを入力してください。（自由記述）

4. 自立・社会参加と学習環境

要約：将来の自立や社会参加を見据え、実生活に近い体験や高度な学習を可能にするための意見。

- ・実践的スペース：カフェや販売活動ができる実習スペース、模擬作業室、企業との面談室、宿泊学習ができる生活訓練室（キッチン付）。
- ・教科教育・障害特性に配慮した教育：高等部での教科教育に対応した理科実験室、IT 機器の整備による情報の見える化、社会の「普通」を体験できる 2 階以上の教室利用。
- ・移動手段の確保：修学旅行等で使用できる、高速道路走行可能かつ車椅子固定台数の多いスクールバスの配置。

5. 現場・保護者の声の反映と運営体制

要約：計画段階からの情報公開や、開校後の適切な管理・人員配置に関する意見。

- ・透明性の確保：アンケート結果の全対象者への公表、具体的計画策定段階での現場教員・保護者との対話。
- ・人員と維持管理：施設の清掃専門員の配置、プールの管理運営の外部委託、設備が故障した際に即座に対応できる長期的なメンテナンス体制。

6. 地域・環境・共生

要約：地域社会や自然環境と調和し、災害時には拠点としての役割を果たすことを求める意見。

- ・交通・通学路の安全確保：スクールバスの安全な運行ルートの確保、教職員・保護者・事業所の送迎車が円滑に流れるような設計、駅からの通学路の整備。
- ・地域開放と共生空間：運動場を福祉公園のようにして地域への開放、知肢併設の特性を活かした施設等のユニバーサルデザインの構築。
- ・防災拠点の機能強化：運動場を避難場所として活用、避難所としての役割として自家発電機、防災倉庫、自動販売機などの設置。
- ・環境への配慮：高度な断熱仕様、雨水利用システム、太陽光や風力発電などの導入、環境に配慮した持続可能な施設。